

# 大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業 (大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアム)

## ■ 都市課題



## ■ 解決方策

エリマネデジタルツインの仕組みの構築による区域の発展的課題の解決に向けた**エリマネDXの実装**（バックエンド）。

エリマネDXにおいて、リアルタイムにデータを活用することで、意思決定プロセスの変容が起こり、高度・総合的・一体的なサービスが創出され（フロントエンド）、街の価値として「**創造性**」「**快適性**」「**効率性**」が飛躍的に高められる。

## ■ KPI

- 創造性:** イノベーションを**創造**し国際競争力あるビジネスを推進する**交流・出会い**のある街  
スマートシティ関連実証実験数10件
- 快適性:** ウェルネスを高め誰もが自分らしく心豊かに**安心・安全・便利**に活動できる**快適**な街  
ヘルスケアアプリの導入者数5万人
- 効率性:** サーキュラーエコノミーを実現する**環境と親和**した街、**ロボットや自動化**を導入し**効率的**な街  
ロボット導入件数150台

## ■ 実証実験の概要・目的

- エリアの回遊型ウォカブル性の向上に寄与すると考えられる**新しい低速自動走行モビリティのサービス実証実験**を実施。
- 当地区での利用者からの**満足度**、利用者の本源需要を刺激する**体験ポテンシャルの有無**、**交通機能に加え滞留/情報発信機能を持つモビリティ・ハブ**（以下、モビハブ）の来街者の回遊性向上への関係性、**アプリでの情報発信**のサービス満足度への寄与、等についての検証を行う。

## ■ 実証実験の内容

### 実証実験の概要

- 場所:** 丸の内仲通り（有楽町エリア周辺）
- 期間:** 2024/10/28~11/6 ※東京国際映画祭会期に合わせて開催。
- 走行形態:** 遠隔監視型（1台）・近接監視型（2台）
- 実施主体:** 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会／ゲキダンイノ合同会社
- 車体:** ゲキダンイノ製iino type-S712（定員：最大3名/台）、速度3.5km/h程度
- 運行:** 試乗については事前予約不要。

### 走行ルート



- 凡例**
- モビリティ・ハブ（滞留/情報発信）／有楽町電気ビル仲通り角
  - モビリティ・ハブ（映像）／有楽町ビル仲通り側入口付近
  - モビリティからの映像投影／有楽町ビル・新有楽町ビル壁面
  - モビリティ・ハブ（滞留/映像）／新有楽町ビル駅側入口付近
  - モビリティ・ハブ（滞留/映像/イベント）／Slit Park（新国際ビル内）

## ■ 実証実験で得られた成果・知見

検証項目	得られた成果・知見
導入可能性の有無、移動体験のポテンシャルがあるか。	当地区での利用者からの <b>満足度は非常に高く</b> 、利用者の本源需要を満たす <b>体験ポテンシャルのあるモビリティ</b> である。
ウォカブルなまちづくりに資するモビリティであるか。	モビリティの走行により来街者に対して <b>ルート付近が人が楽しんだり賑わいのある場所であるというイメージを与えるサービス設計が可能</b> 。
多様な機能を持つモビハブの設置はサービス利用にどのような影響があるか。	交通機能に加え滞留/情報発信機能を持つ <b>モビハブをエリア内に配置することで来街者の回遊性向上に資するサービスとすることが可能</b> 。
アプリでの情報発信の効果検証	アプリを活用した <b>情報発信により、サービスの満足度が一定程度向上</b> する。来街者の <b>回遊起点</b> となる重要なインフラとなりうる。

## ■ 今後の予定

本実証実験を通して、パーソナル型低速自動走行モビリティの都心部での本源需要的な目線での活用ポテンシャルを確認でき、また、移動手段のみならず様々なまちなかでの用途が考えられ、**引き続きまちでの導入の形については検討を深める**。新技術の導入等による都市のリ・デザイン実現に向けては**継続した実証的取り組みが重要**。今後も課題に基づき検証を実施する。現行法制度内では解釈が及ばない点も含め、適した枠組みを整理しながらビジネスモデルの確立に向けて検討を重ねる。また、**ビジネスモデルの検討と合わせ、都市運営の高度化についてもデータ連携や体制検討を継続し**、サービス実装に向けて取り組む。また、本実証実験の結果をエリア内で進めているモビリティサービス関連の検討会議体（リデザインWG）へとフィードバックを行い、今後のモビリティサービス導入・まちのハード整備にいかしていく。